

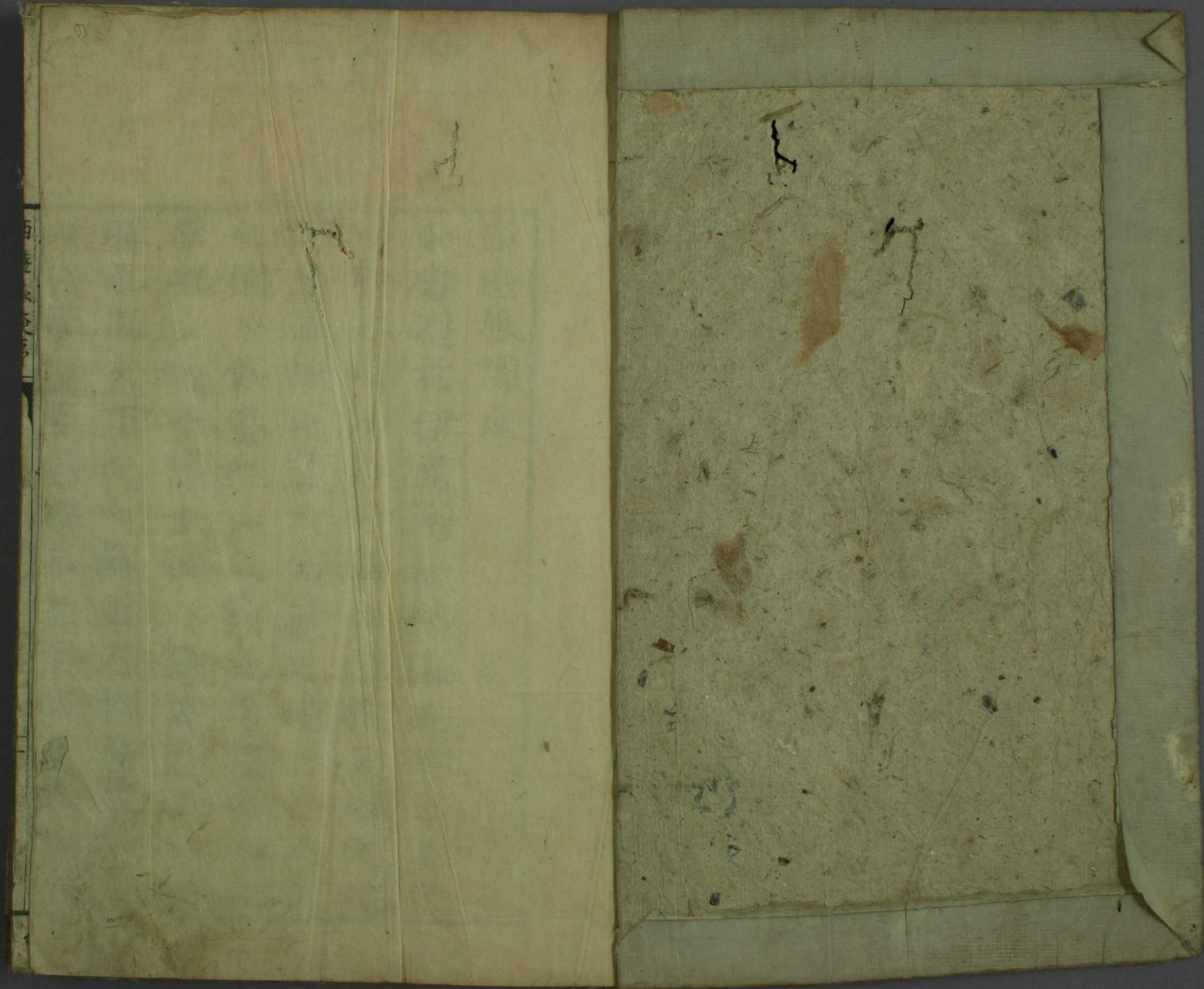
74

卷之壹

西早

特別  
R 3  
334  
1





LETTER OF ...

Handwritten mark or symbol.

Handwritten mark or symbol.

特

門品子  
詩 334  
卷 1

圖川

西遊旅譚序

余嘗遊於伊豆浴乎熱海而登于日金山  
山上有小山曰園山前抱天城之峻  
後負函關之巖右富嶽之皚左巨島  
之圍俯察衆山之崩巍周覽羣嶼之  
峯岬立觀十邦坐辨八極實東海之絕  
勝也而天下之奇觀也乃探篋裝操筆  
硯將畧圖真形以示於同好及臨紙醮

圖川

西遊記卷之四  
筆若存若亡無由下毫於是釋筆喟然  
嘆曰吁嗟聞之古者善畫有舍筆松豈  
不信然哉頃間友生江藻司馬氏齋其  
所著西遊旅譚諗余題其篇端開卷閱  
之則遊乎西邦之記也其所經過名都  
樂國神宇梵屋靡不采覽異言殊辭童  
謠歌謳靡不畢載間之以圖畫以便其  
觀覽因試案其日金山圖崎嶇峩峩堂

泱鬱紆髣髴若視其處恍惚若在其所  
復亦嘆曰寫真之妙一至於斯乎余雖  
未西遊也覽其所已觀而信其所未遊  
昔者有為齊王畫者王問曰畫孰竄難  
竄易曰犬馬竄難鬼魅竄易犬馬旦暮  
在人之前不可類之故難鬼魅無形無  
形者不見故易司馬氏是舉也演風俗  
之美惡圖地形之險易皆考實按形之

事也豈特犬馬之難哉若夫使斯文遭  
輜軒之使以為奏籍亦必為洽見之奇  
書不刊之碩記也曰以是為序云  
寬政甲寅五月戊申

福山 太田方撰



西遊松濤叙

司馬果也授性尤工圖畫生年嘗西  
遊瓊浦暇紀其所歷之勝畫其所以見  
且乞梓者果也曰強小冊實足美且述以  
備世之目也說者曰吾松未始得觀也

西華志序  
 受人臨之輯之名曰西遊拾遺乃得之木問和余  
 見之則自山川草木各就其宜於華宮若什  
 之矣吾而不圖隆景壇焉函西極者境  
 吾而不記唯乎難也此亦也外圖畫之難非  
 海勝之難也言之難也言之難也我未之

見也今夫且許詢之才吾亦知之手則不能使  
 不見之於狀炫耀照輝之妙且席以位  
 吾海勝之才不能使身而急之脩向教亦以備  
 如此之海如海生何林木皆榮華若吾之難  
 也然果若志不安小成之難也

以法信之法通于海内其影其神妙不可言

之所為不陪おとと所為難也其志不歸は海

與不喜

寛政甲寅年五月

未植 神志永摺



西遊旅譚卷之一

天明戊申の四月廿三日芝門を發して神奈川乃

驛小つる青木町つる右れ方山に登り熊野権現の

宮又飯綱社つる夫より田畑をさる一奉松とて

少るき所を是より一臨南蒼海をのぞむ海

中に洲つる乃天女の社つる其向の野毛本目十

二天の森をさる東の方筑波山西の才富嶽に

對する甚の絶景なり

小田原乃驛より左れ方入里州熱海と七里みふ



山中に在る方ハ海也大島初多ありて景佳此山中大石多  
 石と切出<sup>土肥又真鶴石ト云</sup>近年伊豆御影石と云物<sup>ユクコト</sup>以事三里餘  
 土肥村<sup>田夫ノ家ニテ酒食ヲ商</sup>るれを<sup>ホシダ</sup>熱海に在る本陣今井  
 半太夫方<sup>エンチウ</sup>園中より温泉<sup>オンセン</sup>涌出<sup>ユシユツ</sup>す半晝<sup>チウヤ</sup>夜<sup>ヒル</sup>よる度  
 甚<sup>シ</sup>熱湯<sup>ネツタウ</sup>に<sup>アツキユ</sup>て<sup>ヒトシラ</sup>此<sup>イッソク</sup>村<sup>ムラ</sup>總<sup>スベ</sup>て<sup>ワウク</sup>温泉<sup>オンセン</sup>を<sup>ヒル</sup>ま<sup>ヒル</sup>  
 海中にもつ<sup>アツキユ</sup>り<sup>アツキユ</sup>出<sup>アツキユ</sup>る<sup>アツキユ</sup>所<sup>アツキユ</sup>夫<sup>アツキユ</sup>より<sup>アツキユ</sup>七八町<sup>アツキユ</sup>東<sup>アツキユ</sup>乃<sup>アツキユ</sup>方<sup>アツキユ</sup>山<sup>アツキユ</sup>路<sup>アツキユ</sup>と<sup>アツキユ</sup>こ  
 て伊豆権現の社<sup>イヅノケンゲンノシヤ</sup>若<sup>ニヤ</sup>院<sup>ニヤ</sup>と<sup>ニヤ</sup>云<sup>ニヤ</sup>其<sup>ニヤ</sup>山<sup>ニヤ</sup>下<sup>ニヤ</sup>の<sup>ニヤ</sup>諸<sup>ニヤ</sup>邊<sup>ニヤ</sup>に<sup>ニヤ</sup>飛<sup>ニヤ</sup>  
 泉<sup>イゼン</sup>を<sup>イゼン</sup>程<sup>イゼン</sup>より<sup>イゼン</sup>起<sup>イゼン</sup>湯<sup>イゼン</sup>也<sup>イゼン</sup>病<sup>ヤトヒ</sup>を<sup>ヤトヒ</sup>治<sup>イサメ</sup>効<sup>カウケン</sup>驗<sup>ケン</sup>乃<sup>ナリ</sup>事<sup>コト</sup>々<sup>々</sup>土<sup>ツチ</sup>俗<sup>ソク</sup>云<sup>イハレ</sup>鉄<sup>テツ</sup>  
 湯<sup>カレレイ</sup>なり<sup>カレレイ</sup>て<sup>カレレイ</sup>字<sup>カレレイ</sup>を<sup>カレレイ</sup>以<sup>カレレイ</sup>て<sup>カレレイ</sup>呼<sup>カレレイ</sup>ぶ<sup>カレレイ</sup>と<sup>カレレイ</sup>俗<sup>ソク</sup>是<sup>コト</sup>を<sup>コト</sup>稱<sup>イハレ</sup>し<sup>イハレ</sup>て<sup>イハレ</sup>権<sup>ケン</sup>現<sup>ケン</sup>の<sup>ケン</sup>湯<sup>ケン</sup>と<sup>ケン</sup>云<sup>イハレ</sup>



日金山ヒガ子ヤマの熱海より登り事五十町頂に地藏堂丈  
 六の銅佛より僧房三軒より肉食妻財主解人  
 の居所あり珠の山にて田畑不作只弟小笹を生  
 して樹あり鹿猿狼多し夫より又登り事五十丸山あり  
 其山徑狭一人を通じぬ終頂より四方とゆるりぬ左  
 伊豆國加茂郡日金頂所眺洵者十國五島自子至卯  
 相摸國武藏國安房國上總國自辰至申其國  
 所隸之南五箇島及遠江國自酉至亥駿河國信  
 濃國甲斐國

實に眺望四維小達ももるりの終景より画意に  
 活きもりのも終營甚く  
 温泉も西南の方來乃社あり大貴已命を祠る  
 終々此も大楠あり十五圍の樹をみる  
 熱海より三島道還の方越るに五里あり山中は  
 人家あり二里あり登峠の地飛出ると堂守肉食  
 妻財其弟屋に老婢一人とるる白髪と乱火を焚く  
 多し僧あり見真実空の然りて人語の響きあり  
 幽谷之事問人もさげすみ夫より山とゆるりて輕井澤と云ふ

所<sup>ス</sup>も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>初<sup>ハツ</sup>々<sup>ハツ</sup>人家<sup>リヤ</sup>と<sup>ト</sup>又<sup>マタ</sup>ビシ<sup>ビシ</sup>澤<sup>ノ</sup>平<sup>ノ</sup>井<sup>ノ</sup>邑<sup>ノ</sup>松<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>  
 三<sup>ミ</sup>毛<sup>モ</sup>山<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>末<sup>ノ</sup>々<sup>ハツ</sup>々<sup>ハツ</sup>此<sup>コノ</sup>山<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>生<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>天<sup>テン</sup>麻<sup>マ</sup>天<sup>テン</sup>南<sup>ナン</sup>星<sup>セイ</sup>は<sup>ハ</sup>花<sup>ハナ</sup>多<sup>タ</sup>多<sup>タ</sup>  
 五<sup>イ</sup>里<sup>リ</sup>此<sup>コノ</sup>山<sup>ノ</sup>路<sup>ノ</sup>第<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>大<sup>ダイ</sup>本<sup>ホン</sup>ふ<sup>フ</sup>り<sup>リ</sup>松<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>是<sup>シ</sup>高<sup>タカ</sup>山<sup>ノ</sup>左<sup>サ</sup>々<sup>ハツ</sup>  
 伊<sup>イ</sup>豆<sup>豆</sup>天<sup>テン</sup>城<sup>ジヤウ</sup>山<sup>ノ</sup>五<sup>イ</sup>里<sup>リ</sup>十<sup>ジュウ</sup>里<sup>リ</sup>人家<sup>ノ</sup>  
五里十里人家 大木多熊位  
伊豆天城山  
 付<sup>ツ</sup>景<sup>ケイ</sup>左<sup>サ</sup>々<sup>ハツ</sup>  
ヨキケレキ



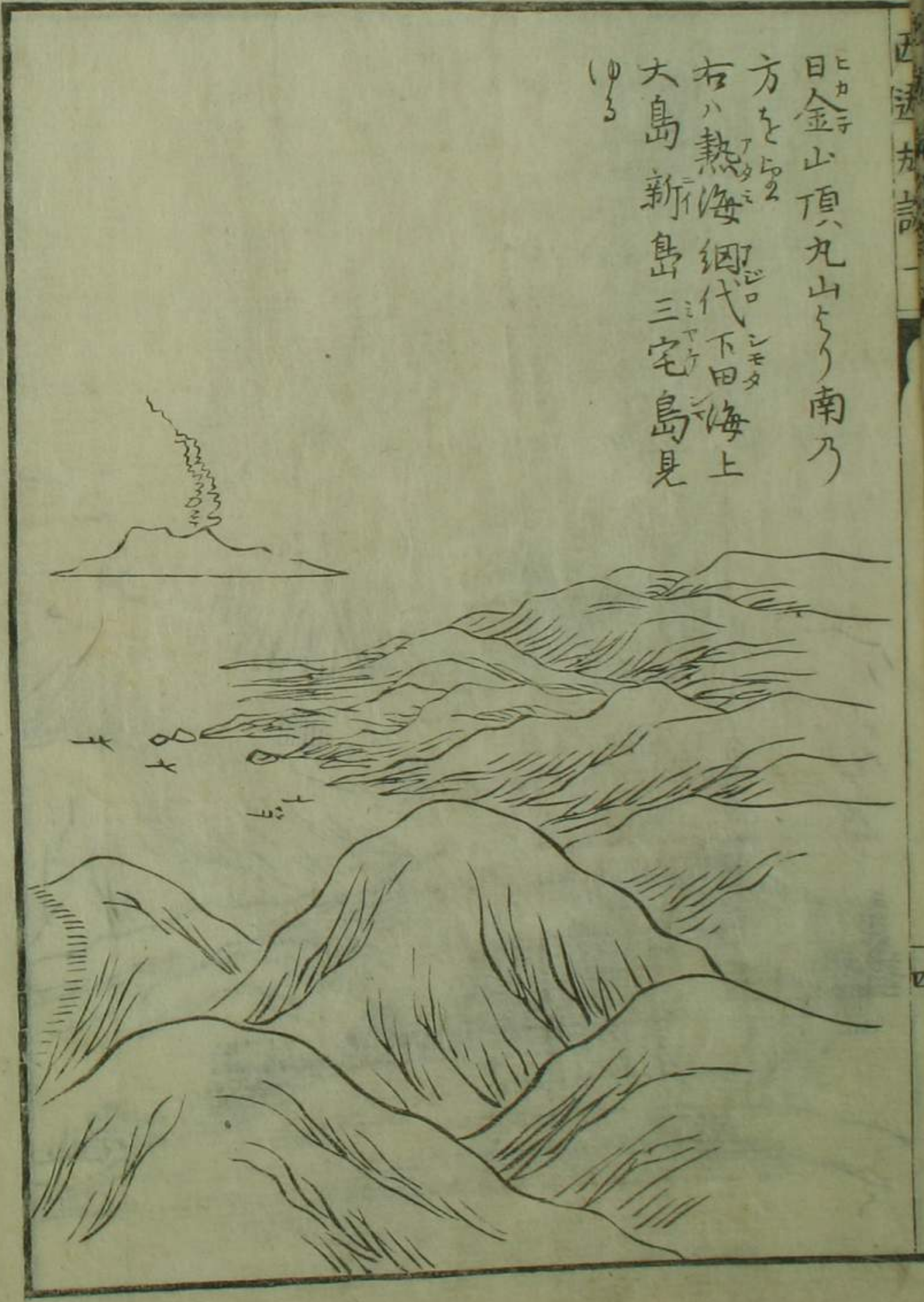
熱海より日金地花堂  
 さいののちの事五十町初  
 サイノ河原よりみよ  
 仰て富士山とやむ時に  
 五月七日終頂積雪必銀

六角地堂ハ地花丈六ノ  
 生像ハにて銅佛ノ  
 ぐらノ乃草金ハ修金  
 う

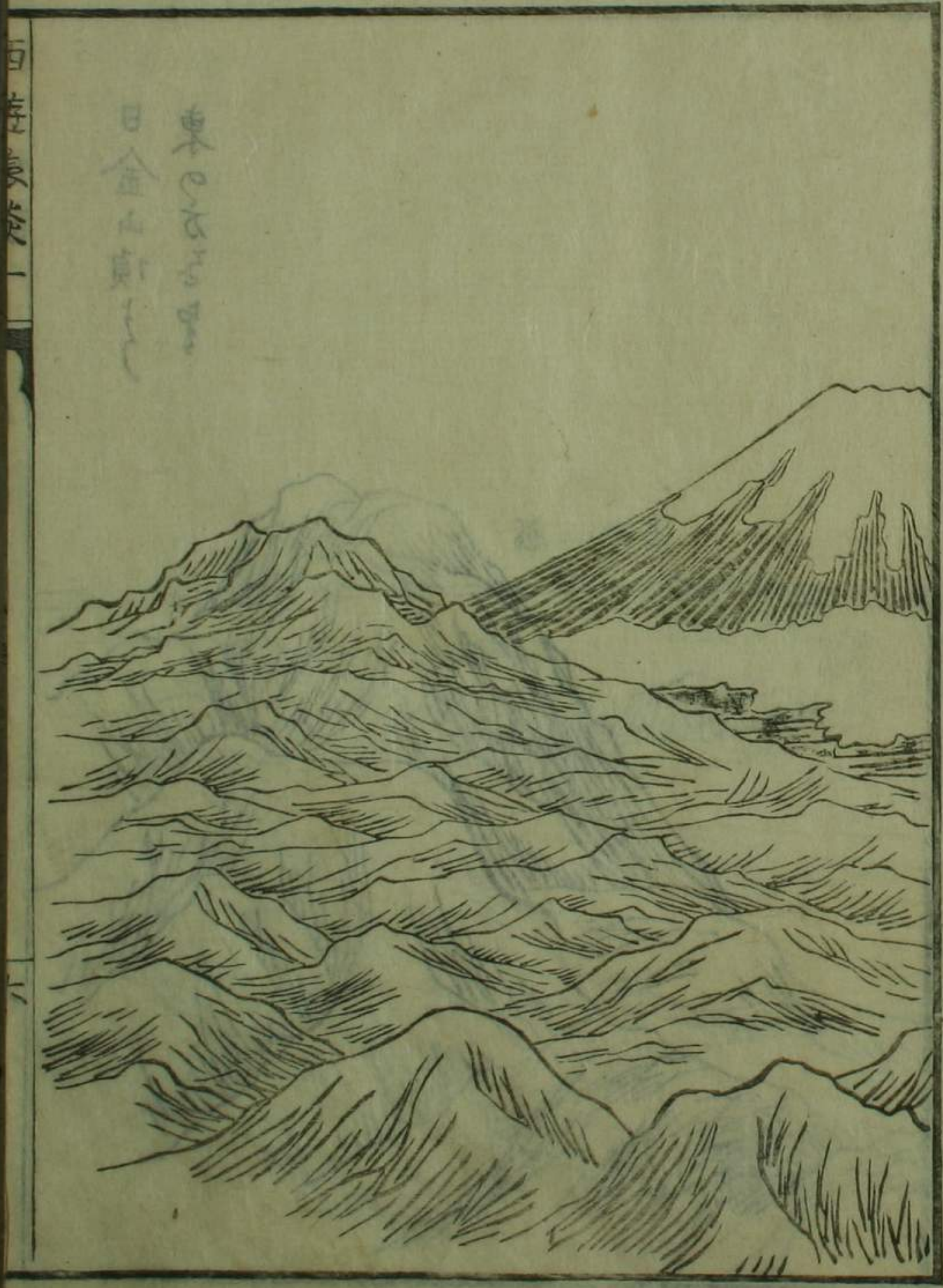




日金山頂  
 丸山より南  
 乃方を  
 右ハ熱海  
 大島新島  
 三宅島見



日金山頂丸山より南乃  
 方を  
 右ハ熱海  
 大島新島  
 三宅島見



東のふもと  
日金山南

日金山南



日金山頂より  
北の方とやふ心  
富士山左は足高  
山右ハ二子山

西遊記

五

日金山頂より  
東の方を望む

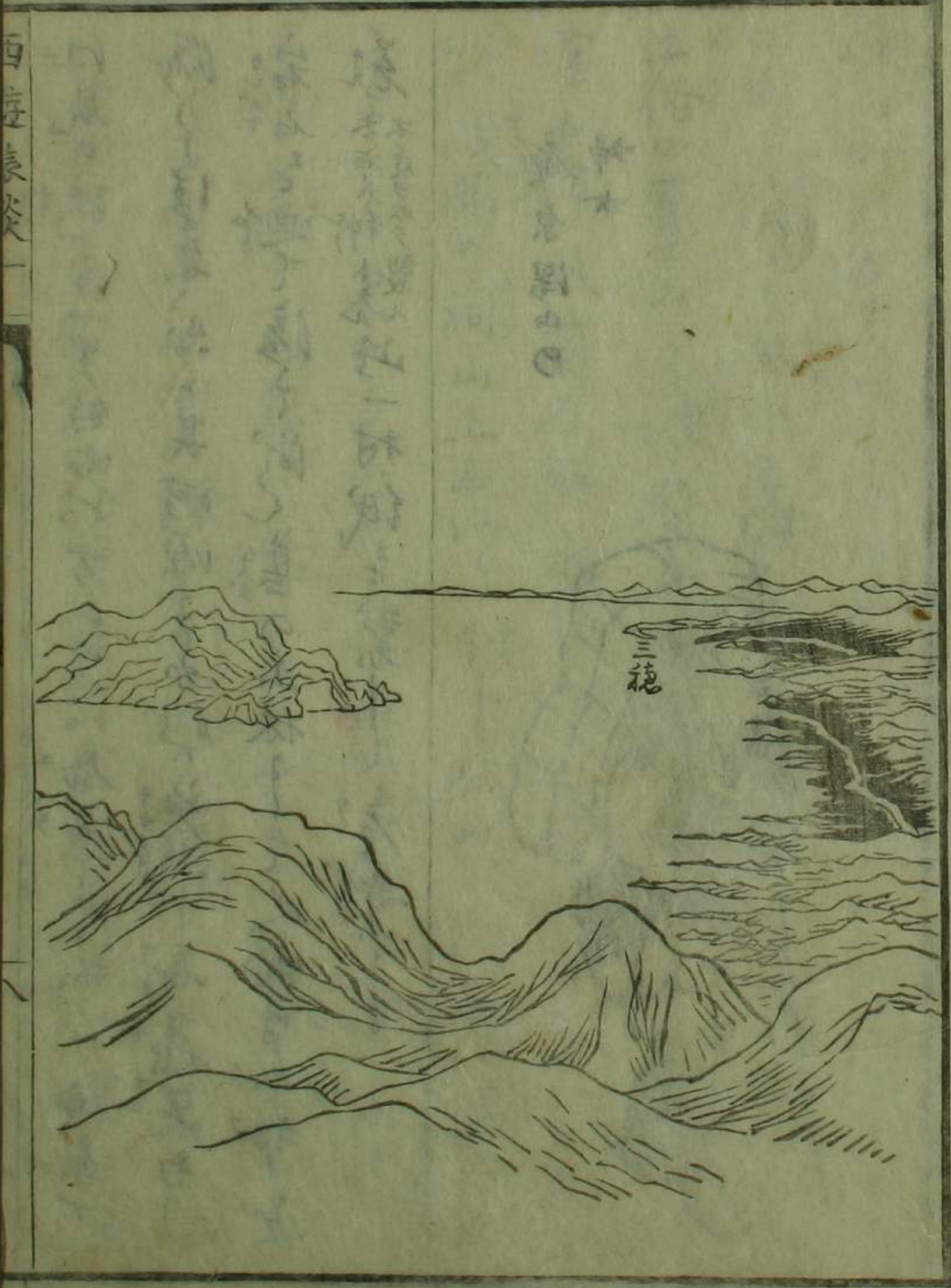


日金山頂より  
東の方を望む

房州上總



日金山頂より西の方を望  
箱根山三島沿津狩野川  
富士川見元



江尻の跋より一里餘右方山中に庵原と云ふる庵原河  
 流くは来、出る其河源より北麓と名流泉あり  
 岩石を廻り流く流く甚の山林とて人物多布を  
 急キル太布八科トスル此一村紙を製して産物とす

庵原深山の  
 婦女



駿府町敷丸太町有皆板屋作御城は来の右に河  
 四面山繞く氣候不順夏月忽變して冷まるとあり  
 土俗曰富士山より冷際乃風と吹る夜ありと又冬月  
 雪不降風蘭石解水仙自山谷に生ず阿部川茶木地塗油時画ノ器物色々  
 多浅間の祠山上ぬり下り臨むと阿部川を流る  
 府中より東の方三里久能山より海をゆく山儀に  
 まり石坂十曲斜に登る左に五重れ塔唐銅の多者  
 入る西面本社右に經藏堂御廟八頂あり此山を  
 下りて一里餘行へ八部と云ふ十二景あり  
往來ヨリ海ノ方一里餘江尻ヨリ入ル

久能山之圖



サボテン、ハナ  
霸王樹花



花の色  
カハ黄

同全圖





久能寺觀音山ヨリ  
富嶽ヲ望圖

伊豆天城山  
鶴巻山  
鷲頭山  
箱根山  
二子山  
足柄山  
足高山



昔雪舟遊于支那而所  
圖富嶽景何乎望無知  
者余登於駿陽矢部補  
陀洛山上如觀之  
寛政巳酉春三月三日  
寫於平安客館乃入  
天覽

陸塘山  
清見寺山

清水町  
湊



八部龍王寺リウケ寺シり國中エニに大龍鐵霸王樹オホリテウサボテン甚大樹シタカキは  
 石路イシカミをのりて觀音堂クワンオンドウあり眺望テウボウす不眼ガンカ下に清水シメツは  
 人家千餘軒ジカセンヨケンり清水シメツ川カハ流ナガレる蒼海サウカイ中ナカ三德サンタク北キタ杉原シノハラ面オモテ  
 以ヨリ富士フジを望ミむ九難クニナン坂サカ薩埵サツタ峠ツゲ由ユ井イ沖津オキツ江尻エジリ清見寺シメツミ  
 山ヤマ右ミダヒ足高山ソクコウサン多栖山タシサン箱根山ハコネサン三子山サンコサン伊豆イヅ鶴巻山ツルマキサン鷲頭山シユウズ  
 天城山テンジウサン先マタく日本第一ニッポンダイイチ乃ナリ風景フウケイ妙ミチヨなり  
 遠州掛川の驛トウシュウケカハノエキより秋系山アキケイサン行ユク二里ニリ山ヤマ路ミチをツてノ河カハをワ渡ワ  
 又マタゆるル二里川ニリカハをツ越コてノ森ノ宿ヤドをツてノ富高フタカアリ夫ツ夫ツよりノ三里サンリ  
夫木師多シ

一イチ瀬セをツ過スりテ此コノ方カタ川カハをツ越コすニ事コト四十八シユウハチ瀬セあり是コノよりノ林ノ中ナカ  
 まで三里サンリと林ノのチまに瑞雲ズイウン坂サカをツりテ瑞雲ズイウン寺ジとスまりり  
 小天龍川テンテンリウカハ舟渡フナワタシ掛川ケカハをツ入イりテ山ノ崎サキ大木オホキ多ク杉ノ杉ノのチ路ミチ  
 山ヤマ九ク高タカ林ノ下ノより山ノはノ登ノりテ五十町イハヒトチヨウ唐銅カラドウのチ鳥居トリイりテ額金明ガクニキミョウ  
 嶺ノ山門サンモンにノ宿勝シュクショウ関カン本堂ホンドウにノ大登オホトウ山サンとス堂ノ南面ナンメン奉尊ホウソン寺ジ觀ケン  
 音ネをツ安置アンチすニ鎮守チンシュ南向ナンキウ権現ケンゲンのチ社ヤシロとス禪宗ゼンジュウ秋アキ葉ハ寺ジ  
 とス云ク是コノよりノ三河國サンカク鳳來寺ホウライジにノゆキ治チ也ヤ則スレバ寺ノのチ後ノ方カタ坂サカ  
 をツりテ事コト五十町イハヒトチヨウ戸倉トクラとス云ク不レあル山ノ坂ノ多ク半里ハンリとス  
 摩河サイカハ舟渡フナワタシ天龍川テンリウカハのチ源ノ之チ此コノ色ノ後ノよりノ末ノよりノ芋イモ稗ヒをツ

食を海をくくく其の深山にて採掘多し  
 夫より石寺一里無村、二里此を深き山林幽巖人相寂  
 冥とくくく地はゆるぎ客乃荷物を負て負を  
 取男子とりて海を寛平地人家の並をくく事  
 々々々々々々々々々々一里半加守連峰にあり又行一里  
 半巢山村此方山を轉く峰あり遠州と三河の境を峰  
 を越或四曲坂を下り大野まで一里半此方有る山  
 大野の市街商家多し夫より板敷川を渡川の底岩  
 如板故小名と稱く鳳来寺椿より五十町山にのりて

行者越くく一町余此に皆巖石を攀り絶頂に到  
 遠州海邊に足て山を連て岐のありくくく三十四町山を  
 下り石階の上た権現の祠を階下薬師堂より末社本  
 堂の後ふ多し左に方名にありて塔を夫より石階をり  
 事九町を歩に十二坊天台真言二派を學顯天台より  
 松高院は言に醫王院の二坊也即ち角屋町旅館  
 多しくくくく澗川へ出る溪の古を流る川舟を  
 けり錢龜村を澗川と名くして新城三里富商多  
 夫より野田二里十六町大木村三里豊川ありて小

高戸カウドの東の山原を原本野々として松原の事  
一里余漸沛由信を述べし也

熊村

此の曲辰夫ハ舎と山乃半に  
他ハ別一二軒山ノ下に作  
を以て山ノ下ハ猪豚多  
し其畑を以て山ノ下ハ  
に垣をむすし一園有  
谷ノ下ハ此の村ノ  
小なるハ此の村ノ  
底倉の字に宿す秋  
少クは猪豚多し  
夏日ハつゞも故に



鳳來寺乃方重山  
かきりやく見ゆ



勢州日永村ツンツン踊之圖

唱文句

おん

かま

ツンツン

塙々

田と植

一本

千と

二本

数



おん

馬

車

あ

美

山

西

山

山

山

山

山

山

山

山

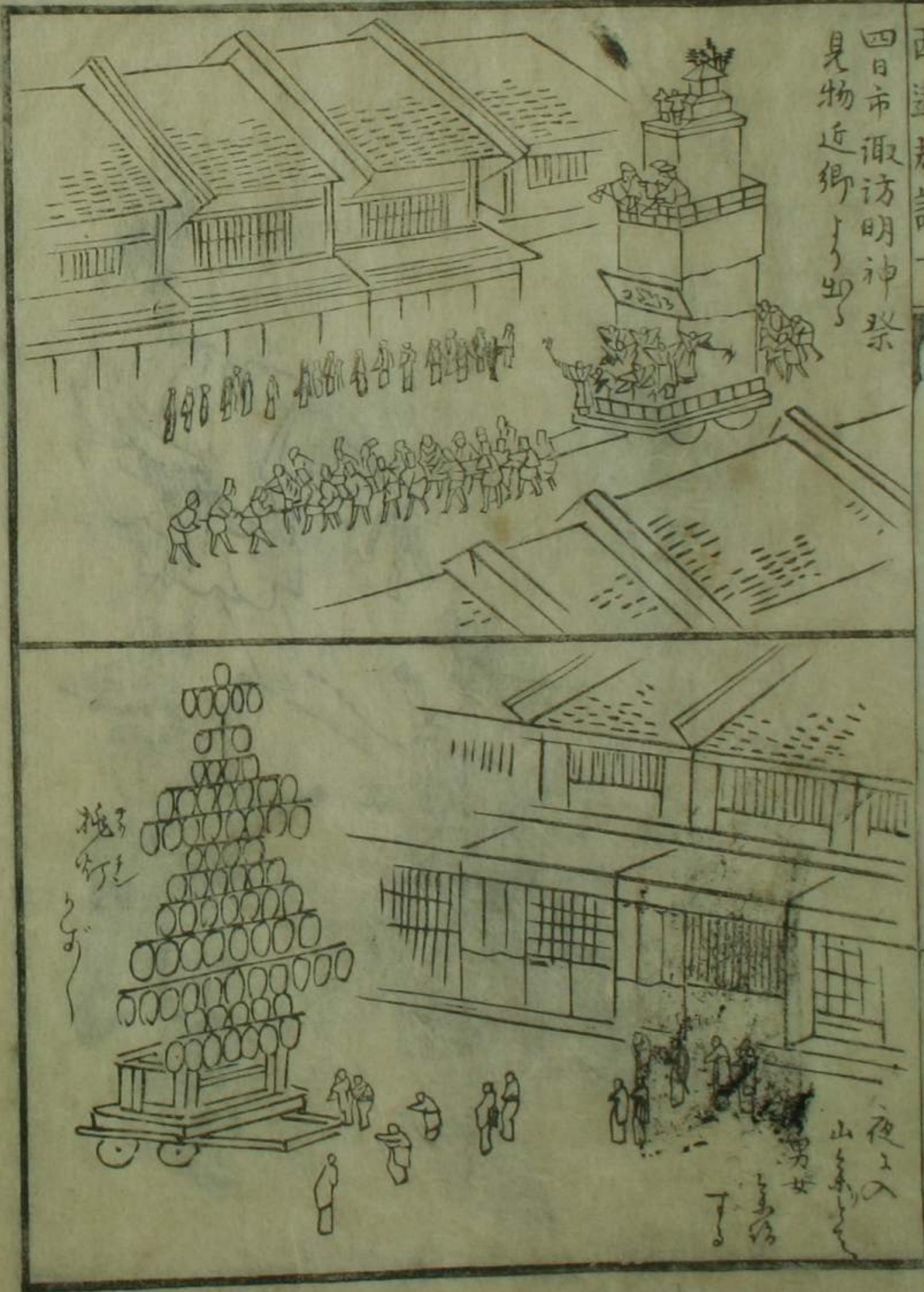




四日市盆踊  
おんど唄年々  
文句  
うら



四日市諏訪明神祭  
見物近御しり出



勢州四日市の遊エトより石巻師の坊乃宿日永村ヒナカの七

月ツキ十三日十四日十五日盆中ハシラの踊マシを小童コドモ或アハバ十七八トナリの女子メノコ

又マタ廿歳ハタチの女のメノコ白シロきキのヒのヒにニ此コノ舞マシをシほシるル舞マシのヒにニ此コノ舞マシをシほシるル

腰ウシにニ扇アヒをシきキのヒにニ此コノ舞マシをシほシるル輪ワをシきキのヒにニ此コノ舞マシをシほシるル

よヨりリ此コノ踊マシをシほシるル一ヒト町チヨウつツ唱ウタ文フミ句クマらラうウひヒぬヌ

七月シチグヒ十六日ジュウロクニチ日ヒ永ヒナカよりヨリ三サン里リ余ヨリ菟ウ野ノとト西ニシよりヨリ土ツチ方カタ

侯コウ一ヒト萬マン石シタマのノ領リョウ地チ陣ジン屋ヤをシてテ市イチ中チュウ一ヒト二ニ町チヨウ夫フよりヨリ東ヒガシにニ方カタ

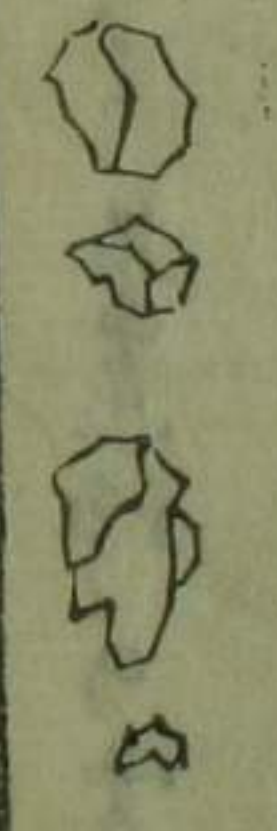
事コト十ジュウ余ヨリ町チヨウよりヨリ河カハ原ハラをシつツりリ五イチ六ロク十ジュウ間マ常トコにニ水ミヅがガ雨アメ降フるル

河カハ川カハ源ゲンハハ三サン里リをシ隔ヘカ湯ユのノ山ヤマ青アヲ瀧タキとト名ナ瀧タキ乃ノ流リるル

湯の山路  
溪河乃  
圖



廿日湯山より蘇野より二里餘一里まで方一里程の原より山無  
 原一白真桔梗女島を秋夜感の自夫溪河成波北山中口入皆  
 砂山に砂流て山骨を顕大石道路を塞又より半里溪  
 流より水中央石を叩き石を踏越へ溪流甚下  
 又より四五町より溪水より同く踏越へ左右大山より  
 石より山を挟て坂を屋舎と作り軒并其半湯  
 室の温泉水の火を焚湯より浴する者多し此地嶮岨  
 あり大樹あり五穀不生此處土を踏山石より大石の  
 破り砂より水あり





此山に夏月... 岩名に傳く生ん大毒也圖



ウテナ

此山中夏月... 七月廿六日廿七日市取訪 明神の妻... 見物し出る山...

作又... 勢州石茶... 白石... 夏月... 社に...





八月二日甲寅村を越えて神戸に三日  
 に神戸を過り白子観音堂伊勢余宮道也夫  
 より津より藤堂侯府乃城下より  
 比屋ヒラキ横に町ツツケ富高フミタカを雲津川舟  
 渡此川伊賀山より流す夫より又川を  
 二瀬フタセり此方坂をゆ人家つま  
 富高フミタカ多夫より事四里小畑オホタ又新  
 茶屋よりゆめをさる宮川乃  
 舟渡りしと山田人家建タチツキ續ツギ柳ヤナギ昌シヤウ



の地シラウカ外宮内宮オホナカの方古中  
 乃地シラウカ所オホ倡家多  
 六日二見浦乃方山田を越えて  
 山中にゆゆ半半里許に  
 三河河う堤会所より舟に  
 程より二見よりゆゆ  
 二見浦をゆゆゆゆ  
 舟よりゆゆ一村入川  
 舟よりゆゆ山をこえ  
 又渚シラヘ色にゆゆ他の浦より  
 舟よりゆゆゆゆ山

へへ 志林手國鳥羽浦あり人家多し市街あり  
 是より西四里より五十町一里あり此浦は西國の方乃船を掛  
 關東の方渡り日能山笠を四方乃島に懸る  
 佳景也

池の浦に國  
 飛を山七ツ崎  
 又ゆる東川方



鳥羽  
 町  
 山  
 の  
 方  
 景





